

「私は、天地の造り主、全能の父である神を信じます」

ローマ8：28－39（「使徒信条」Ⅰ）

堀田修一 22・9・4

当教会で毎週の礼拝で信仰告白をしている「使徒信条」と「主の祈り」は、素晴らしい恵みです。「使徒信条」は、キリスト教会の最古の信条で普遍的に受け入れられ、告白される信条の一つ。異端（聖書と違う教え。この二千年間常にある。旧統一教会、エホバの証人、モルモン教、現代も福音的な各教団に入り込む教会の一致を壊す教えあり。「使徒信条」を説き明かす意義がある時代）と戦いつつ、世界に広がる教会が聖書の一致した理解を宣言しようとしたのが使徒信条。使徒信条は、三位一体の父と子と聖霊なる神の御業に分けられて信仰告白が成されています。そこで、今週から数回に分けて使徒信条を説き明かします。使徒信条の意味をかみしめて告白し、神に栄光を帰し、信仰の確認（成長）、福音の宣教（使徒信条は福音の告白）に用いられますように。主の祈り：「悪（間違った教え）からお救い下さい」。「私は、天地の造り主、全能の父である神を信じます」。ハイデルベルク信仰問答の第26問から使徒信条の説き明かしがスタートする。「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず」と唱える（成長する信仰で心を込めて告白する）時、あなたは何を信じているのですか。答え＝「天と地のその中にあるすべてのものを無から創造され、それらを永遠の熟慮と摂理（創造の後も保持される。いっさいの背後に働かれる神の御支配、神の導き、ご計画）とによって今も保ち支配しておられる、わたしたちの主イエス・キリストの永遠の御父が、御子キリストのゆえに、わたしの神またわたしの父（正しさと愛に満ちた霊的な親）であられる、ということ」。これらをまとめると、天と万物の創造者なる神と造られた私たち人間の「遠さ。本来は近づけない偉大な天地を創造されたお方」と「近さ。全能の偉大な方、主イエスを信じる者の愛の父となってくださる親しさ、暖かさ」を理解できる。主の祈り「天にいます（神の偉大さによる遠さ）私たちの父よ（神の愛による近さ）」に通じる。

1. 天地の造り主という信仰告白の土台のみことば＝「はじめに神が天と地を創造された」創世記1：1。天と地とその中にあるすべてのものを無から創造され、それらを永遠の配慮と摂理（神の支配、ご計画）とにより、今も保ち支配しておられる私たちの主イエス・キリストの永遠の父なる神。それは私たちを越えた絶対的な存在、本来は近づけない偉大な方。しかし、その神が、御子キリストの十字架と復活の恵みを信じる信仰のゆえに私たちを神の子どもとしてくださり、私たちの神また私たちの父（霊的な完璧な親）として、正しさと優しさに満ちた愛で私たちを愛してくださるといふ信仰告白。※どんな親を望むか。
2. 「全能」の根拠のみことば＝「わたしは全能の神である」創世記17：1。「神にとって不可能なことは何もありません」ルカ1：37。私たちは、全能の神を信頼して不可能に思えることも幼子のように素直な信仰で正直な願いを心から祈りたい。結果は、最善をなさる神に委ねて。「いつでも祈るべきで、失望してはいけない」ルカ18：1。コロナ終息、戦争終息、人生の悩みへの神の解決のため祈りましょう。

3. 全能の神が、私たちの父となられ、私たちが神の子どもである根拠のみことば＝「天にいます私たちの父よ」マタイ6：9。主の祈りの神への呼びかけ。「この方（主イエス）を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった」ヨハネ1：12。全知全能の創造者なるお方を、被造物に過ぎない私たちが「父」とお呼びできるのはなぜか。本来、「父なる神」と呼ぶことができるのは、御子イエス・キリストのみ。父と子という関係は、この両者にのみ成り立つものだった。ところが、私たちが主イエス・キリストの十字架と復活の恵みにより救われたとき、私たちもまた御子にあってイエス・キリストの父なる神を「私たちの神、私たちの父」と呼ぶことができる恵みの世界が開かれたのである。「神の御霊（御霊とみことば）に導かれる人はみな、神の子どもです。あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ（アラム語で父の意味。親しみと愛と信頼の呼びかけ）、父」と叫びます。御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてください。子どもであるなら、相続人でもあります。私たちは、栄光をともに受けるために苦難をともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人（神の祝福を相続）なのです」ローマ8：14－17。私たちが「父なる神様」と祈るとき、そこにはキリストによって罪の負債が完済され贖われ（代価を払い滅びから買い戻され）、聖霊によりキリストと霊的に結ばれ、結合され、それにより「神の子どもとされた」という三位一体の神の御業がすべて込められている恵みを自覚せられ、神への賛美が生まれる！
4. 神の創造と摂理（神の保持、支配、ご計画）。父なる神を、「私たちの神、私たちの父」と信じるとき、創造と摂理の信仰も生き生きとした信仰告白となる。ハイデルベルク信仰問答、問26の答の続きを見ると「わたしはこの方により頼んでいますので、この方が体と魂に必要なものすべてを、わたしに備えてくださること、また、たとえこの涙の谷間（悩み多い生涯）へ、いかなる災いを下されたとしても、それらをわたしの益（最善、主の姿への成長）としてくださることを、信じて疑わないのです。なぜなら、この方は、全能の神としてそのことがおできになるばかりか、真実な父としてそれを望んでもおられるからです」。ここでは、摂理（神の守り、神の支配、神のご計画）について多く語られている。多くの場合、摂理（神のご支配）の信仰は「運命論」のように受け止められ、私たちにはどうすることもできない宿命、定めと理解される。しかし、神の摂理、神のご支配への信仰と運命論や宿命論は決定的に違う。その違いとは、神の摂理、神の支配には、全能の神と私たちの間に人格的な暖かい関係があるという恵みである。もし、私たちの人生のすべてが、運命で全てが決まるなら、創造と摂理の神に正直に願い事を祈ることは空しいことになる。しかし、人格のある偉大な神は、聖書を通して「どんなときも失望せず、祈りなさい」と語りかけられる。私たちの人生は、運命で決まるのではなく、自分の罪を認め主を信じ、神に祈り、神と交わることにより、私たちの人生は神の喜ばれるものに変えられ続けるのです。神を賛美します！天と地の創造の全能の神は、私たちが信じる主イエスの恵みの故に、私たちの父となってくださり、父なる神の全能の御業は、私たちに対しての「愛」の御業となり、必ず私たちにとり、すべてが益となる。「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益（主の姿への成長）となる」ローマ8：28。「死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも…そのほかのどんな被造物も、わたしたちの主イエス・キリストにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません」ローマ8：38－39。私たちの人生の中では全能の神の御手の中で「神よ。どうしてこんな事が

私の身に起きるのですか」と尋ねたくなる事が起こる。その時も、私たちは、全ては理解できなくても、この試練も、神の愛から私を引き離すことはできないと御聖霊の励まして信じさせていただく。神が与えてくださる益とは、私達が苦しみの中で忍耐を養われる恵み、どんな時も神の恵みを数えて感謝する恵み、将来について私達の真実な父なる神を信頼し、どんな試練もこの方の愛から私達を引き離すことはできないと確信する恵みである。なぜなら、あらゆる出来事はこの全能の神の御手にあるので、御父の許しなしには、何も起きない。愛に富む神はすべてのものを創造された後、被造物を決して偶然や運命に委ねられず、御自身の聖なる意思により支配し導かれる。私達の人生に偶然はなく、みこころなしに何も起きない→マタイ10:29-31のみことばは、言い表し難い慰めを私達に与える。神は真実で愛の父らしい配慮をもって私達を見守っておられ、全ての被造物を従えておられる。私達の人生に何事も御父の許しなしに起きない。全てを益（主の姿への成長）へ。それは確かに私達に完全な安らぎを与える。最後に「使徒信条」を再度大切に告白しましょう。